

各 位

会 社 名 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

代 表 者 取締役社長 依田 誠

コード番号 6674

問合せ先 財務統括部長 中川 敏幸

(TEL.075-312-1211)

## 業績予想の修正および特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 20 年 5 月 13 日および平成 20 年 8 月 8 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

## 記

## 1. 連結業績予想数値の修正

(1) 平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 20 年 8 月 8 日発表)	百万円 160,000	百万円 3,000	百万円 2,000	百万円 1,000	円 銭 2.72
今回修正予想 (B)	145,000	6,500	6,500	2,500	6.80
増減額 (B - A)	△15,000	3,500	4,500	1,500	—
増減率 %	△9.4%	116.7%	225.0%	150.0%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	137,668	△705	△1,551	△1,635	△4.45

(2) 平成 21 年 3 月期通期 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 20 年 8 月 8 日発表)	百万円 340,000	百万円 13,000	百万円 12,000	百万円 6,000	円 銭 16.34
今回修正予想 (B)	300,000	13,000	12,000	4,000	10.89
増減額 (B - A)	△40,000	—	—	△2,000	—
増減率 %	△11.8%	—	—	△33.3%	—
(ご参考) 前期実績	312,012	12,384	9,946	2,670	7.27

## 2. 個別業績予想数値の修正

### (1) 平成21年3月期第2四半期累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想（A） （平成20年5月13日発表）	百万円 3,000	百万円 2,000	百万円 2,000	百万円 1,000	円 銭 2.72
今回修正予想（B）	3,000	2,000	2,000	1,800	4.90
増減額（B－A）	－	－	－	800	－
増減率 　％	－	－	－	80.0％	－
（ご参考） 前期第2四半期実績	1,635	483	856	805	2.19

### (2) 平成21年3月期通期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A） （平成20年5月13日発表）	百万円 4,000	百万円 2,000	百万円 2,000	百万円 1,000	円 銭 2.72
今回修正予想（B）	4,000	2,000	2,000	1,500	4.09
増減額（B－A）	－	－	－	500	－
増減率 　％	－	－	－	50.0％	－
（ご参考） 前期実績	2,700	335	971	676	1.84

## 3. 修正の理由

### (1) 平成21年3月期第2四半期累計期間

連結業績につきましては、主要原材料である鉛価格の下落により、鉛価格と連動した販売価格を設定していた海外関係会社の売上高が減少するとともに、国内補修用自動車電池の販売も需要が減退したため、当初の予想に至りませんでした。また、当社子会社の不適切な取引発覚に伴う売上高の修正も影響し、連結売上高予想を下方修正いたします。一方、連結営業利益予想及び連結経常利益予想は、売上高の減少はありますものの、主要原材料価格の下落等、コストの減少の効果により上方修正いたします。連結四半期純利益予想は、当社子会社の不適切な取引発覚に伴う特別損失として当第2四半期累計期間に約14億円を計上しますが、前述の増益要因により、予想を上方修正いたします。

個別業績につきましては、当初予想していた税金費用が減少したため、四半期純利益を上方修正いたします。

### (2) 平成21年3月期通期

連結通期業績予想は、上記（1）の通り第2四半期累計期間における減収及び増益要因がありますが、第3四半期以降も海外及び国内自動車電池市場の更なる需要の減退、国内の設備投資関連の落ち込み、円高による影響など厳しい経営環境が予想されるため、売上高を下方修正いたします。また、連結営業利益及び連結経常利益については当初の予想通りとし、連結当期純利益については、上記（1）の特別損失要因を踏まえ、予想を下方修正いたします。

個別業績につきましては、上記（1）の通り当初予定していた税金費用が減少したため、当期純利益を上方修正いたします。

尚、期末配当予想（6円）は変更いたしません。

#### 4. 「当社子会社の不適切な取引」に関する損失について

平成 20 年 9 月 19 日に公表しました当社子会社の不適切な取引発覚に伴う損失は、売上債権残高の中で回収に疑念の生じているものが約 75 億円存在するとしておりました。その後の調査で平成 17 年 3 月期から平成 21 年 3 月期第 2 四半期までの、架空売上高の累計額は 320 億円となり、過年度分を含む連結純利益への影響額は約 70 億円（内、過年度分 5,304 百万円、当期分 1,755 百万円）であることが判明いたしました。このうち、過年度分の影響額は、上記、連結業績予想数値の修正の表にあります、「(ご参考) 前期第 2 四半期実績及び前期実績」には反映しておりません。

本日、本開示と同時に「当社子会社の不適切な取引に関する報告」を開示しておりますので、詳細につきましては、こちらをご参照ください。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

以上